

## 築川ダムの疑問点「ダムはどれだけ役に立つの？」

### 築川ダムに反対する市民の会

築川ダム計画は現在付け替え道路建設が進行中ですが、それに関しては必要性があると感じます。しかし、ダム本体に関しては大きな疑問を感じます。

#### 1、ダムを最初に望んだのは誰？

これまで何度か地元の方々にお話を聞く機会を得、築川ダム計画が始まった当時のことについて伺ったところ、当初は反対意見の方が多かったと聞きます。岩手県に「築川ダム立案にいたる資料」の開示をお願いしましたが、現在では存在しないと開示されませんでした。

これでは築川ダムの必要性についての最初の決定的要因が欠落しているような気がしてなりません。いったい築川ダムの建設は、誰が最初に言い出したことなのでしょう？今となっては誰にも知ることもできないことなのでしょう？

#### 2、築川の水害被害の多くは本流の洪水によるものではありません

実際の被害を検証してみれば、築川水害の多くは本流の洪水によるものではなく、内水（陸地に降る降雨）がその原因の大半をしめるようです。

昭和57年からの河川改修により、大雨が降っても災害は起こりにくい状況になってきていますし、近年の被害のほとんどは農地の冠水などに限られるようです。



平成2年洪水の状況

(平成2年9月盛岡タイムス)

#### 昭和54年水害

「付近の灌漑用水路が決壊し築川に流れ込み付近一帯が濁流におおわれた(昭和54年8月盛岡タイムスより)」

#### 平成2年水害

「現場の築川は新たに山橋建設工事中で、激流のため足場の上に積んでいた鉄製の円筒型柵や鉄骨などが流れ約10㍍下流に造られている仮橋につかえたため川水が道路に溢れた。(平成2年9月岩手日報より)」

#### 平成14年水害(台風6号)

この時の106号通行止めは、川の氾濫が原因ではなく、山側からの雨が側溝から溢れたためです。そのため、地域の避難場所である川目小学校へは、誰も避

難できない状況にありました。築川ダム計画書では、この周辺の流下能力は800t/s(トン/秒)もあり、最大流量335t/s(葛西橋地点計測)の台風6号が、川から溢れることは考えられません。山側からの降雨による災害はダムでは防げません。

流域の多くは洪水が起きても被害はあまりでない状況ですが、平成 14 年水害の際に堤防の浸食した、東安庭堤防だけは話が違います。

### 3、ダムができれば流域は安全になるのでしょうか？「東安庭堤防の問題点」

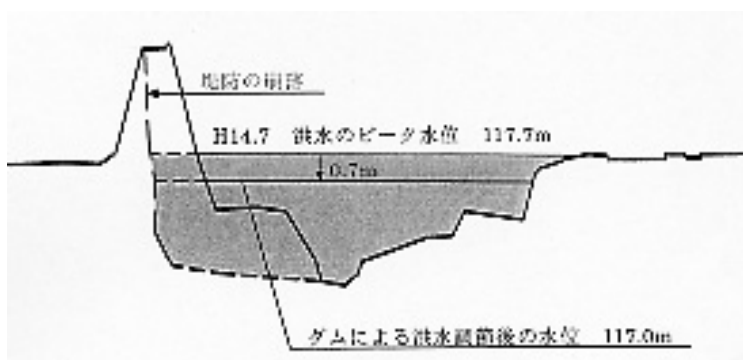
岩手県河川課は、東安庭堤防の侵食をこのように説明しています。

「初期の洪水の時に、河の流芯、流れの一番激しいところが堤防側に寄ってきて、それがだんだん堤防の足許をすくっていったということで、だんだんだんだん欠けていった。(7月30日築川治水対策報告会における県の回答)」

これによれば、堤防浸食の重要な要因は、**ピーク流量の大きさよりも継続時間にあるといえます**。堤防を超える流量でなくても、ある一定の流量が長く続けば堤防浸食の危険はあるのです。報告会では、県はその後の災害復旧により強度は増したと説明します。

「現在の堤防の強度ですが、約 230mの間を低水路を固めまして一様にそこを流れていく、それ以上(中堤)は護岸を貼りましてその上に、覆土をして植生を、自然に生えるのを待っていると。ですから、従前の土堤からすると、耐久性・安全性は向上していると考えています。」

たしかに、堤防の下部に関して強度は増しているかもしれませんが、みなさんご存じのように、**堤防本体は以前のままです**。台風6号レベル、あるいはそれよりもっと大きな洪水はやはり、ダムが出来ても浸食の危険がある水位まで達してしまうのです。



築川ダム計画書によれば、台風6号(H14,7月)時の水位は、ダムによって下がるため、安全になるという説明をしていますが、ダム調節後も水位は中堤を超えていますし、ダム調節流量は、台風6号より大きいのです。(340t/s)

本来、この堤防は800t/s以上の流下能力があり、**築川ダムを不要とするだけの治水安全度を備えています**。現在様々な工法の開発により、比較的安価に堤防の強度を向上させることが出来るのですが(熊本県八代市の萩原堤防の強化堤防建設費は約29億円)、ダムができれば、この堤防の改修はいつまでも着手されないまま放置されることになります。ダムにお金を使い果たして、そこまで余裕がないのです。

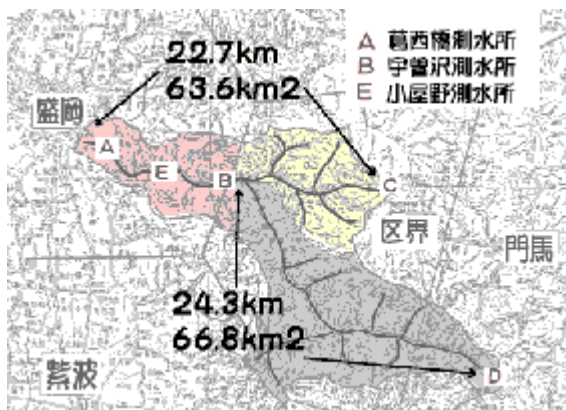
「その堤防を、どういう耐久性をあげるかと、安全性を増すかという、もう一歩高い段階に入って参りますので、それについてはちょっと、今の段階ではそれをやるとか、そういうことはちょっと言えない状況です」

治水報告会では、河川課も超過洪水の可能性を認めています。しかし、その具体的な対

策は、警報活動以外には説明されていません。

東安庭の方々からお話を聞いたところ、交通渋滞解消も兼ねた堤防幅の拡充を望む声が多くありました。ダムに固執するばかりでなく、地元住民の望む声を治水行政に活かすべきではないでしょうか？

### 流域に備わる洪水調節の特性



この流域には「築川総全長より根田茂支流のほうが長く面積も広い」ため、「根田茂支流のピークが本流に達する前に、築川のピークは流下し終わっている」という治水上優れた流域特性があるます。ダムがなくてもこの特性があるため、例え大雨が降っても緩和されるのです。

しかし、ダムができればこの特性はなくなり、築川上流・根田茂の流量を一緒に

ため込むこととなります。このため、ダム規模をいたずらに大きくするばかりでなく、調節流量(340t/s)の継続時間を長くしてしまうので、たとえ越流することはなくなったとしても、東安庭堤防の浸食・決壊の恐れは消えません。

今年7月に起きた新潟水害では、上流のダムに頼るあまり、決壊の恐れのある堤防を放置していたという、築川ダム計画と同じ状況で起きた水害なのです。

### 4、ダムの水は美味しいでしょうか？

次にあげるのは、平成15年度の盛岡市4浄水場の水質検査結果(最大値)から採った細菌類の数値と浄水場ごとの浄水コスト(動力費含まず)です。

	水源	一般細菌	大腸菌	浄水方法	1m <sup>3</sup> の薬品代(円)	1m <sup>3</sup> の電気代(円)	合計(円)
中屋敷	御所ダム	2000	24000	活性炭処理	0.95	1.96	2.91
沢田	築川表流水	1400	4900	急速濾過	1.20	0.62	1.82
新庄	綱取ダム	1300	7900	活性炭処理	1.07	4.18	5.25
米内	米内川表流水	490	4900	緩・急速濾過	0.59	0.57	1.12

このうち最も安全で安価だといえるのは米内浄水場で、同じ中津川水系である新庄浄水場との違いは、「上流にダムがあるかないか」だけです。

築川の場合、薬品代が高いことが目に付きますが、これは上流部畑地からの土壌流出に

よる影響だと思われます。（関係者の話では改善に努力し年々回復傾向にあるようです。）問題は、盛岡市がこの築川の薬品代を例に挙げ、「ダムの水も表流水とさほど変わらない」という説明の根拠にしていることです。

活性炭処理とは、おもにカビ臭などの臭いを除去するもので、ダムから取水する浄水場には近年ではほとんど全てに設置されています。また、それにより活性炭取り替え費用も発生し、取り替えた活性炭は産業廃棄物としてもやっかいです。

「中屋敷浄水場系統において、昭和 58 年 10 月頃急遽、御所ダム（湛水開始同 55 年 11 月）貯留水に藍藻類の発生に起因するカビ臭が発生したため、水質予測、異臭味除去実験を行った結果、粒状活性炭ろ過池を設置することとした。

（盛岡市水道事業概要より）」

築川ダムが出来れば、活性炭処理の導入は予想され、浄水コストも上がるでしょう。

さらに**ダムの水は気温の影響を受け、冬は刺すように冷たく、夏は生温くなります。**平成 14 年に水道水を井戸水から月山ダムの水に切り替えた鶴岡市（山形県）の住民アンケートでは、「水がまずくなった。」「夏の水が生ぬるくなった。」「水温低下で光熱費が高くなっている。」「水道料 2 0 0 0 円アップ、電気料 1 0 0 0 円アップで家計が苦しい状態です。」「お湯の温度を最高にしても、フロのお湯が通常より熱くない。」などの苦情とも聞こえる意見が多数寄せられました。（成瀬の水とダムを考える会 HP より）**水道水をダムに変えることは予想以上に大きな影響を市民生活に与えるのです。**

## 5、築川ダム取水事業の問題 岩手県内市町村公共事業評価委員会の結果から

盛岡市の現況の水道水使用量は最大で 10 万 m<sup>3</sup>/日程度、現況の配水能力は御所取水を含まずに 12 万 6 千 m<sup>3</sup>/日です。県と盛岡市の間で行われた意見交換会では、「盛岡市単独では、御所水源に何かあった時だけ築川ダムの必要性がある。」という結論を得ています。

さて、この「御所水源に何かあった時」とは、「御所ダム上流におけるタンクローリーの転落などによる水源汚染により、御所・中屋敷 2 浄水場が同時に取水不能に陥る」という、想定するにはあまりにも確率の低いもので、日本の首都である東京都でさえ、浄水場が丸ごと 2 つ使えなくなるなどというリスク想定はしていません。

その上、これまでの支出額 1 7 億円で手にした供給量は、わずか 4,300m<sup>3</sup>/日。1,000m<sup>3</sup>クラスの井戸が 5 千万円程度で造れるのを考えれば、ムダというほかありません。

盛岡市は、築川ダム利水参加を「沢田浄水場に 5 億円ほどの増量整備で可能」といいますが、この 5 億円には築川ダムからの直接取水する費用は入りません。ですから、ダムが上流に出来るだけで、築川表流水を取水する点では今までと何ら変わりがないのです。

あわせて、築川ダムは流量調節設備のないダムですから、渇水時に流量を増やす機能がありません。ダムが出来ても上流から流れてきた分がそのまま下流へ流れるのです。

このことは、流量の少ない時期に無理やり拡大した取水量を確保することにもつながり、**ダムができる前よりかえって川を干上がらせる原因を作ってしまったといえます。**

また、盛岡市は築川ダムができることによって、水源汚染事故による断水を回避できるといいます。しかし実情は、ダムからの直接取水ではなく取水場所は現在のままですから、平成 15 年の築川重油流出事故と同じ状況になったとしたら、**この時と同じように断水の危険は存在するのです。**

## 6、ダム規模は今後縮小される可能性があります

築川ダム取水事業では利水分が縮小しても不特定水利分があるため、ダム高はさほど下がらないという説明です。しかし、この不特定水利分は、ダムによる直接取水が行われず流量調節設備もないため必要性に大きな疑問があります。

一方、花巻市宮野目地区の灌漑事業も、いまだに利水主が確定しない上、導管距離 50 km という、およそ事業採択は不可能ではないかと思われる事業です。これから行われる県の公共事業評価専門委員会でも、これらのことは必ず問題にされることでしょう。県も国も財政難ですから、このような不要な部分に資金を投入する余裕はありません。

**これらのどれかが縮小されれば当然ダム高は低くなり、ダム湖畔を地域活性として期待するのは、多少無理があるかもしれません。**

## 7、地質の面でも心配です。 厚い風化層と活断層の問題

106号国道の付け替え工事が風化層の厚さが原因で倍増したのはご存知のことでしょう。これは付け替え道路に限ったものではなく、ダム貯水池周辺の事前調査はほとんど行われていない事実からも、**今後の工事全てに風化層による工事費の増額はついて回りそうです。**

風化層の厚さは、そのまま堆砂量（ダム湖に溜まる土砂）の多さにつながります。胆沢郡石淵ダム（昭和 28 年竣工）は、堆砂でダムが機能しなくなり、耐用年数 80 年を待たずに、現在建設中の胆沢ダムの底に沈む予定です。

それよりもっと懸念されるのは活断層の存在です。根田茂川流域の片貝地区には活断層が走っている可能性があり、「日本の活断層（活断層研究会 1980 年）」という冊子にもそれは指摘されています。

奈良県川上村の大滝ダムではダム湛水により水が活断層に浸透した結果、ダム周辺の地盤がずれ周辺住民が今も避難したまま戻れない状況だそうです。国土問題研究所の地質調査（今年 7 月）では、**築川ダムサイト周辺の地質が、大滝ダムのものと非常によく似ている**という報告を受けています。

## 8 , ダム下流の河床低下も深刻です。

現在、盛岡市前九年町では、館坂橋の付け替え工事が行われています。



「館坂橋の橋脚は、長年に渡る著しい浸食に加え、構造上の問題が……。これまでも補強対策を行ってきましたが、大きな地震などに耐えられない、危険な状態であるといわれています。(マシエリ04年10月14日号)」

館坂橋は橋脚基部の浸食の最も大きな要因は、上流にある四十四田ダムです。

御所ダムがある雫石川においても、ダム関係者から「下流の河床低下による構造物の劣化は将来深刻な問題になるだろう(現在調査中)」という情報を得ています。

普通、ダムのない川であれば、橋脚の土砂が流されても上流からの新たな土砂の補いがあるので河床が極端に低くなることはないのです。しかし、上流にダムが出来れば土砂は堰き止められるため、水流による洗掘のため下流の河床を低下させ、ダム自身も土砂のため機能を低下させるという、非常にちぐはぐな問題を作り出すのです。

築川ダム建設後何年かして河床低下が目につきだし、橋を架け替えなければならなくなった時、果たして県や市に財政的余裕はあるのでしょうか。

## 9 , 「あなたに聞きたい築川ダム市民投票」結果

日時	平成15年1月19日(日)午後1時～午後2時半
場所	おでつて(盛岡市中の橋通り)
主催	「あなたに聞きたい築川ダム市民投票」実行委員会
対象	一般歩行者

昨年(平成15年1月)、プラザおでつて前を通行する盛岡市民の方々を対象に、仮想「築川ダム市民投票」を行いました。

方法は、「賛成」「反対」「わからない」の3つに区分けされた紙面に、手渡されたシールを1ポイントずつ貼っていただくというものです。総人数134名の方にご協力いただきました。

### 投票結果

	賛成	反対	わからない
投票数	5	98	31
率	4%	73%	23%

## 10、盛岡市民の理解を深めるべきではないでしょうか？

「築川ダムに反対する市民の会」では、賛同する市民の方々の協力を得て、商店街・デパート前などで10数回に渡り街頭書名を行いました。署名効率は非常に良く、盛岡市民の多くは築川ダム建設を望んでいないと感じます。

ふりかえって、岩手県や盛岡市からの、市民への説明は非常に少なく、事業全体が秘密裏に行われているという印象を受けます。

今回の流域懇談会のような、ダムについて語り合う場は、以前から頻繁に行うべきものでしたし、一般公募わずか3名では、少なすぎます。このような枠を取り払った、誰でも参加できる説明会の開催、最終的には市民の投票で決めるなどの選択も視野に入れるべきではないでしょうか。